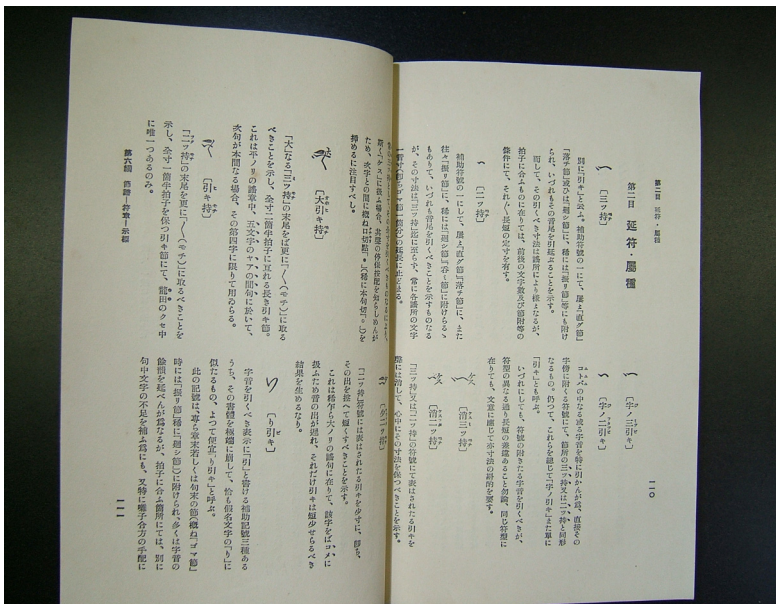
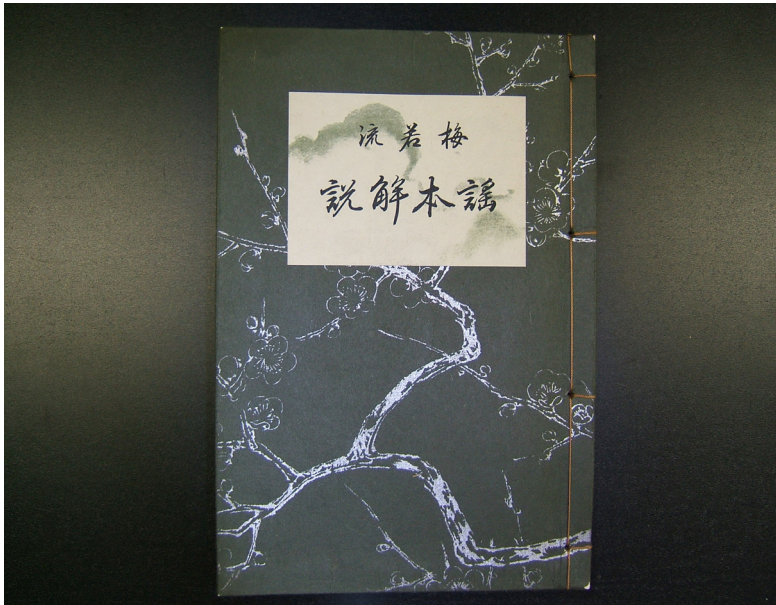


梅若流謡本編纂部 『梅若流 謡本解説』

観世流改訂本を主に使用していた梅若流であったが、建流十年、山崎楽堂を編纂主事とし独自の謡本を刊行する。本書は謡本附属の解説書。節付については序文に「試謡演吟は助任（牧田清之助）之に当り、疑義付審は補佐（梅若景英）之を釋き、理旨解説は助任（山崎楽堂）之を究め、逐条裁定は主任（宗師、梅若六郎）之を司り、採決事項は録事（佐々木彦太郎）之を記す」（序文七頁）とあり、成立過程がわかる。写真下は、「引キ（持）」の説明箇所。



標題 内題：—

標題紙：梅若流 謡本解説

奥附：梅若流謡本解説

その他：梅若流謡本解説（題簽）

著者 奥附：梅若流謡本編纂部

その他の場所：謡本編纂部（標題紙）

出版 版次：第一版

出版地：東京

出版社：梅若流謡本刊行会

出版年：昭和11（1936）

その他の場所：—

形態 冊数：一冊 頁数：一六六頁

寸法：22×15（cm）

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考